

■石本秀一 広島商監督で全国制覇、プロ野球誕生時にタイガース監督で黄金時代、廃墟広島にカーブを誕生させた“野球の鬼”

いしもとひでいち
八幡製鉄始 1897=

野球熱の盛んな広島のと比治山の麓段原で、土木請負業石本和三郎の長男に生まれる。

やんちゃで活発なガキ大将に育ち、

日露戦争始 1904= 7歳 : 段原尋常小学校に入学すると、
日露戦争終 1905= 8歳 :
満鉄発足 1906= 9歳 :

早くも、学校対抗野球のエースとして活躍、

明治天皇没 1912=15歳 :
大正政変 1913=16歳 :
第一次大戦始 1914=17歳 :
21ヶ条要求 1915=18歳 :

親の反対を押し切って、広島商業学校に入学。すぐに、レギュラーになり、2年になると投手に転じ、実業野球大会に参加して、早くも優勝体験。
この年始まった全国中等学校優勝野球大会(現在の夏の甲子園)予選に、エースとして活躍するも、決勝で

民本主義 1916=19歳 :
ロシア革命 1917=20歳 :
本格政党内閣 1918=21歳 :
ベルリン条約 1919=22歳 :

広島中に敗れ、以後、悔しさを胸に猛練習、コーチに来る早大選手も打てない球を投げるようになり、広島中に勝利して、第2回全国中等学校優勝野球大会に出場したが、2回戦敗退、早くも猛練習がたたって剛速球が投げられなくなり、続いて第3回にも出場したが、1回戦で敗退、早大からの勧誘に応じて、早大の怒りを買って、関西学院高等部商科に入学するが、1年で中退。自暴自棄的になり、父が貸していた家の娘と恋に落ち、父に反対され、満州に駆け落ち、大連の会社に勤務。大連実業団のチームに招かれ、遠征してきた慶応に、頭腦的ピッチングで勝利。

原敬首相暗殺 1921=24歳 :
水平社結成 1922=25歳 :
関東大震災 1923=26歳 :

大連商業の監督に迎えられると、いきなり全国中等学校優勝野球大会の予選で優勝させ、大陸からの初の監督として出場し、バスト4にまでなるが、誕生直後の子が死に、父が大怪我したため、妻と別れて帰国。現役引退を決心し、{大阪毎日}広島支局に勤務、久しぶりに見た母校広島商の不甲斐なさにも、自ら志願して監督に就任、猛練習を課し、

護憲三派圧勝 1924=27歳 :
共産党事件 1928=31歳 :
世界恐慌 1929=32歳 :
海軍軍縮条約 1930=33歳 :
満州事変 1931=34歳 :

*嶋尾から甲子園に移った最初の第10回全国中等学校優勝野球大会に出場させただけでなく、広島県勢、近畿以西、実業学校として初優勝、甲子園の初代王者になり、広島県民の野球熱は沸騰するに至る。

五一五事件 1932=35歳 :
国際連盟脱退 1933=36歳 :

以後、仕事に専念し、敏感記者として成長するが、母校広島商はすぐに低迷、消滅の危機のうわさに、監督に復帰、いきなりの猛練習は無理と、3年計画の建て直しを考え、精神修養を重視した結果、監督と見合い結婚。第6回選抜大会は初戦敗退したが、早くも、第15回大会に優勝、第7回選抜大会も初戦敗退したが、続く第16回大会も連覇、

芥川直木賞始 1935=38歳 :
二二六事件 1936=39歳 :

長男が誕生。初めて背番号が用いられ、優勝校には{毎日}からアメリカ遠征の褒賞が出、読者に優勝予想懸賞金を出す投票で圧倒的な最高票も獲得した第8回選抜大会に優勝、史上初の夏春連覇。選手引き連れ、約束のアメリカ旅行では、船中から貴重な体験をし、苛酷な日程で地元の人々との連戦、堂々たる成績で帰国。一段落したと、監督を退き、広島支局で仕事に専念するも、名は全国に轟き、

日中戦争始 1937=40歳 :
第二次大戦始 1939=42歳 :
大政翼賛会 1940=43歳 :
日米開戦 1941=44歳 :
1942=45歳 :
創価学会検挙 1943=46歳 :

和歌山県の壁に阻まれて、甲子園に全く出場できないでいた奈良県の、郡山中学の監督に招かれると、紀和大会決勝の日、「祖母、死す」の電報あるも隠して、甲子園出場を決め、県民を沸騰させ、

敗戦 1945=48歳 :
新憲法公布 1946=49歳 :

東京巨人軍が誕生。続いて、正力が阪神電鉄に働きかけ、森茂雄を監督に、大阪タイガースが誕生、*プロ野球が開幕。阪急に大敗したため、二代目監督に招聘されるが、選手らが森監督のために奮起して優勝してしまう。森は抗弁せず、就任するも、選手らの抵抗もあって、巨人のエース沢村栄治に、プロ野球初のノーヒットノーランを献じ、打倒沢村を中心に猛練習、爆発的な攻撃力で、「猛虎」の人気は沸騰。

新憲法施行 1947=50歳 :
極東裁判決 1948=51歳 :
三大事件 1949=52歳 :

オールスターゲームの前身の職業野球東西対抗戦第1回大会の西軍の監督を務めた(東軍監督は藤本定義)。通算307試合を勝率.743という強さながら、V3を逸した責任を取りタイガースを退団、名古屋金鯱軍の監督に就任するが、選手層が薄くて大きく負け越し、チームは解散、

朝鮮戦争始 1950=53歳 :

翼軍と日本プロ野球史初の対等合併で大洋軍が結成され、二頭体制で紛糾後、監督に就任、2位と健闘。対名古屋戦では空前絶後の世界最長試合・延長28回の指揮も執ったが、チームは西日本鉄道を譲渡され、そのまま監督を続け、秋季リーグで優勝させるも、解散してしまう。支えてくれた妻の肺腫瘍の悪化もあって、一家で広島に戻り、妻の実家近くの村に疎開、農作に励む。

独立回復 1951=54歳 :

広島市内の中心地近くに嫁いでいた末妹は原爆で即死、探し回った父は放射能に汚染され死去、その心労で母も死去してしまう。*プロ野球が再開するなか、新リーグ(国民野球連盟)結成に関わる愛弟子濃人渉の要請で、新球団グリーンバグの監督になり、広島閥で固めるが、資金難に陥り、

マーゲ-事件 1952=55歳 :

親会社を変え、結城ブレイブスになって優勝するも、経営悪化、国民野球連盟自体が消滅しまう。妻が疎開先で死去。行き場を失った選手らを吸収した金星リトル・スターズの二軍監督を引き受け、

TV放送始 1953=56歳 :
自衛隊発足 1954=57歳 :

広島に自宅を購入し、モトメと再婚。太陽ロボンスの監督になるも、最下位になるなど、転々とするうち、日本野球連盟総裁になった正力が二リーグ制に向けて動き出すと、{毎日}を皮切りに、続々と申し込みがあり、{阪神}の動きが混乱を招くも、実現。郷里に創設された{カーブ広島野球倶楽部}に、自ら売り込み、初代監督に就任。壮絶な選手やコーチの引き抜き合戦のなか、人脈を駆使するなどして、固めるが、

安保闘争 1960=63歳 :

開幕後、連敗が続いて、財政が火の車となり、金策に奔走、連盟にも金が払えず、加盟権取り消しの危機に陥るが、広島出身の蔵相池田勇人を後援会長に迎えてごまかし、東洋工業などから寄付が出てくるも焼け石に水、株式会社組織に変えるも、地元の政争との関係で、池田の存在が裏目に出る。ついに、選手らが自ら行動に立ち始め、チーム内の紅白戦で各地を回るうち、熱狂する市民の思いが樽募金に集結し、おまわりさん募金を代表に、様々な職場からも寄付があり、自らも{中国新聞}紙上で訴えたりするが、

全国総合計画 1962=65歳 :
TV宇宙中継始 1963=66歳 :
いざなぎ景気 1966=69歳 :

*ついに、NHKラジオで「広島解散、大洋に吸収合併」と報じられて、市民県民が憤激しているのを見、彼らそのものを後援会にすることを提案して受け入れられ、自ら精力的に説いて回り、奇跡の存続が実現。

全共闘ピーク 1969=72歳 :
大阪万博 1970=73歳 :

勝率3割を切ったら加盟権取り消しの嫌がらせに、選手も奮起してクリアするとともに、募金活動も成功し、解散の憂き目に遭った{松竹}の看板選手も受け入れて補強するが、

日中国交回復 1972=75歳 :
石油ショック 1973=76歳 :
クワンゾ-ル事件 1975=78歳 :
成田衝突 1978=81歳 :
中曽根内閣 1982=85歳 :

独断専行ぶりが問われ、東洋工業が本格的支援に乗り出すのと引き換えのように、追放される形で退団、知将三原脩監督率いる{西鉄}から、球界では初となる投手コーチに迎えられると、チームの雰囲気を一変し、多くの投手を飛躍させて、初優勝に貢献。稲尾和久を発見、急成長させるなど、礎を築くが、

西本恵「日本野球をつくった男 石本秀一伝」